

D-1トレンチ1-1ピット北面 スケッチに示された地層の色調 (No.149) を修正

従前

見直し後

第833回審査会合

資料1

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について (コメント回答)

30頁

第833回審査会合 資料1に追記(青太枠)

K断層の連続性評価について

K断層の性状(1-1ピット北面)

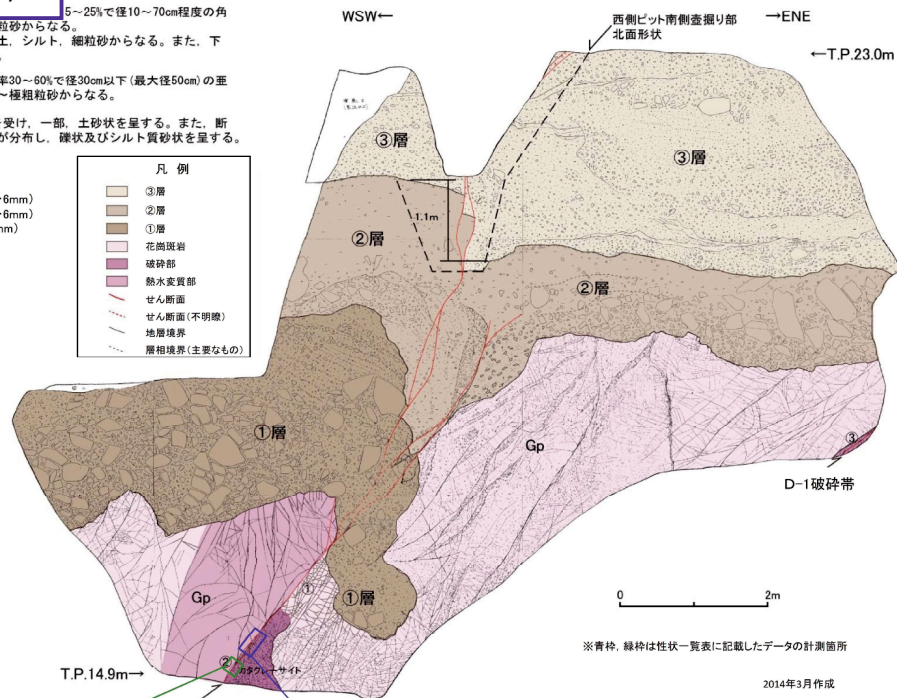
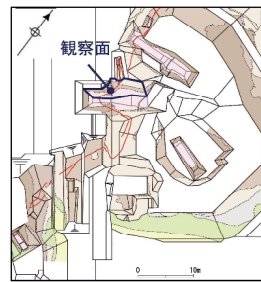
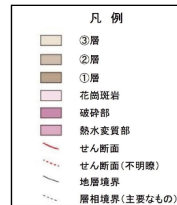
- 1-1ピット北面のスケッチを以下に示す。
- 1-1ピット北面では、K断層は基盤岩から堆積物(③層)までを逆断層的に変位させている。
- 基盤岩中では、K断層はNo.149度西傾斜である。最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果、縦ずれ成分が卓越する。

- ③層: 砂礫を主体とする。浅黄褐色(7.5YR7/3)で径10cm以下の垂直礫からなる。淘汰は良い。基質は中～粗砂からなり、細礫を含む。葉層が発達する。
- ②層: シルト質砂礫を主体とする。基質はシルト及び中～細粒砂からなる。上部には砂礫混じりシルトが分布し、主に粘土、シルト、細粒砂からなる。また、下部の一部には、シルト質砂礫が分布している。
- ①層: 砂礫を主体とする。浅黄褐色(7.5YR7/3)で、礫率30～60%で径30cm以下(最大径50cm)の垂直礫からなる。淘汰は極めて悪い。基質は中～粗粒砂からなる。

Gp: 花崗斑岩: 浅黄褐色(7.5YR8/4)。全体に風化を受け、一部、土砂状を呈する。また、断層周辺部では、花崗斑岩質カタクレーサイトが分布し、礫状及びシルト質砂状を呈する。全体的に変質している。

- ①: f: N14° W64° W 断層ガウジ(灰褐色粘土: 幅2～6mm)
- ②: f: N10° W61° W 断層ガウジ(灰褐色粘土: 幅3～6mm)
- ③: f: N6° E65° W 断層ガウジ(褐色粘土: 幅2～15mm)

f: せん断面



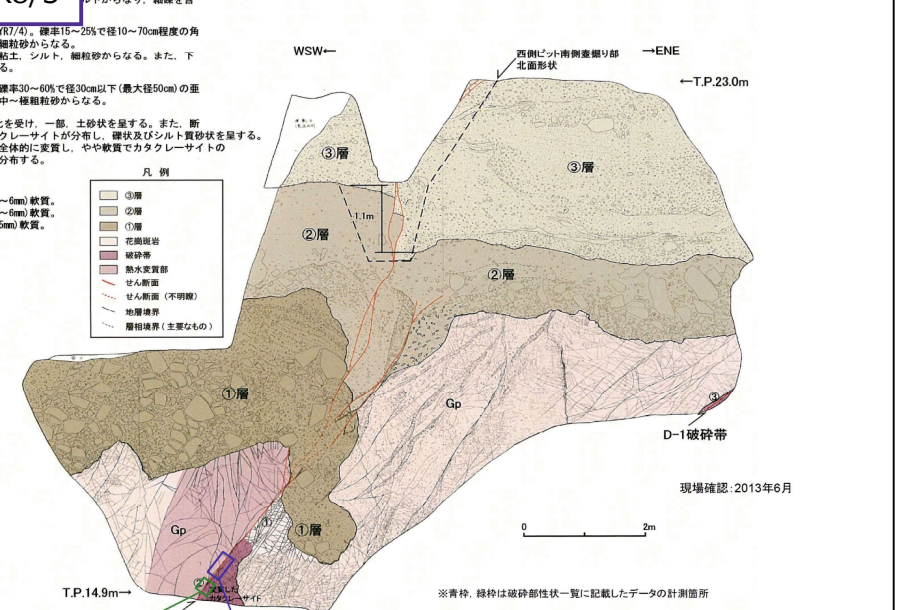
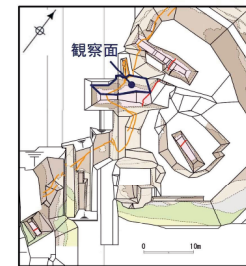
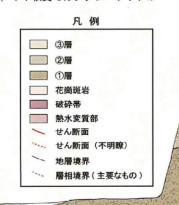
- D-1トレンチ1-1ピットでは、K断層は基盤岩から③層を変位させ、北面では、②層上面の鉛直変位量は1.1mである。
- 岩盤部において、K断層は北法面ではN-S方向で高角度西傾斜であり、断層ガウジを伴う。
- 最新活動面について複数の条線方向を統計的に整理した結果、縦ずれ成分が卓越する。

- ③層: 砂礫を主体とする。浅黄褐色(7.5YR7/3)で径10cm以下の垂直礫からなる。淘汰は良い。基質は中～粗砂からなり、細礫を含む。葉層が発達する。
- ②層: シルト質砂礫を主体とする。基質はシルト及び中～細粒砂からなる。上部には砂礫混じりシルトが分布し、主に粘土、シルト、細粒砂からなる。また、下部の一部には、シルト質砂礫が分布している。
- ①層: 砂礫を主体とする。浅黄褐色(7.5YR8/3)で、礫率30～60%で径30cm以下(最大径50cm)の垂直礫からなる。淘汰は極めて悪い。基質は中～粗粒砂からなる。

Gp: 花崗斑岩: 浅黄褐色(7.5YR8/4)。全体に風化を受け、一部、土砂状を呈する。また、断層周辺部では、花崗斑岩質の変質したカタクレーサイトが分布し、礫状及びシルト質砂状を呈する。花崗斑岩質の変質したカタクレーサイトは全体的に変質し、やや軟質でカタクレーサイトの特性が認められる。また細粒部は礫目状に分布する。

- ①: f: N14° W64° W 断層ガウジ(灰褐色粘土: 幅2～6mm) 破質。
- ②: f: N10° W61° W 断層ガウジ(灰褐色粘土: 幅3～6mm) 破質。
- ③: f: N6° E65° W 断層ガウジ(褐色粘土: 幅2～15mm) 破質。

f: せん断面



断層ガウジ・断層角線の幅計測箇所(1-1ピット北面) 走向・傾斜、条線方向計測箇所(1-1ピット北面: 12箇所のデータを平均化) 第7.4.4.97図(1) K断層 ピット調査結果(1-1ピット) (その1)

D-1トレンチ擁壁撤去法面 スケッチに示された地層の色調 (No.152) を修正

従前

見直し後

第833回審査会合

資料1

敦賀発電所2号炉敷地の地形、地質・地質構造について (コメント回答)

37頁

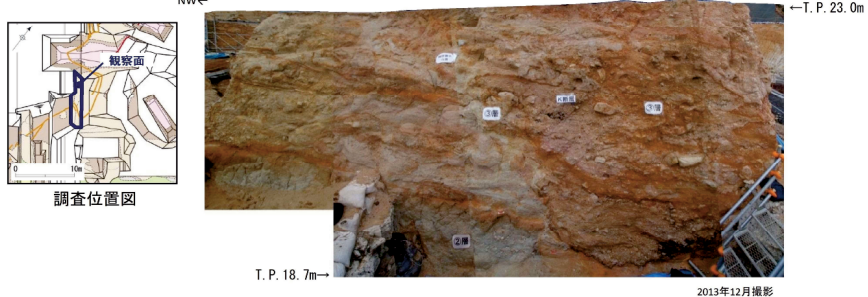
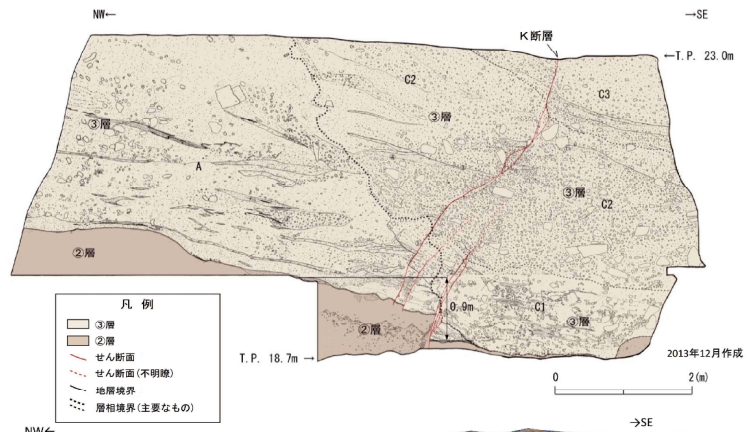
第833回審査会合 資料1に追記(青太枠)

K断層の連続性評価について
K断層の性状(擁壁撤去法面)

第833回審査会合
参考資料(1/3) 修正

No.152
浅橙色

- ②層: 硬質シルト質砂: 褐色～淡黄褐色 (7.5YR6/1～10YR8/4)
基質はシルト。細～中粒砂であり、礫は径100mm以下の角～亜角礫主体である。全体的にやや軟質で北西傾斜と破砕となる。
②層上面の傾斜は、K断層の上盤側で10°程度で、下盤側ではほぼ水平を示す。
- ③層: 硬質シルト質砂: 淡橙色～淡黄褐色 (5YR8/2～10YR8/2)
礫は径40mm以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
基質は細～粗粒砂主体であり、レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。
- C1層: 砂質: 明黄褐色～にぶい橙色 (10YR6/6～7.5YR7/3)
礫率30～40%であり、レンズ状に砂層を挟む。
硬質シルト質砂: 淡赤褐色～灰白色 (2.5YR7/3～7.5YR/1)
基質は細～中粒砂であり、淘汰はやや良い。
礫は径40mm以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
- C2層: 砂質: にぶい橙色～明黄褐色 (7.5YR7/3～10YR6/6)
礫率30～40%であり、淘汰はやや悪い。
基質は径200mm以下の風化を受けた角～亜角礫主体である。
- C3層: 硬質砂: にぶい橙色～淡黄褐色 (5YR6/4～7.5YR8/3)
礫は径100mm以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
基質は中～粗粒砂で、淘汰はやや悪い。

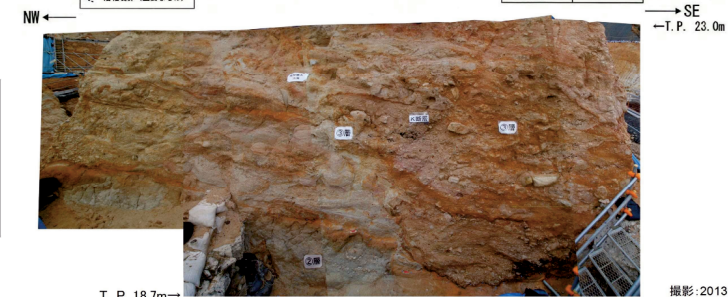
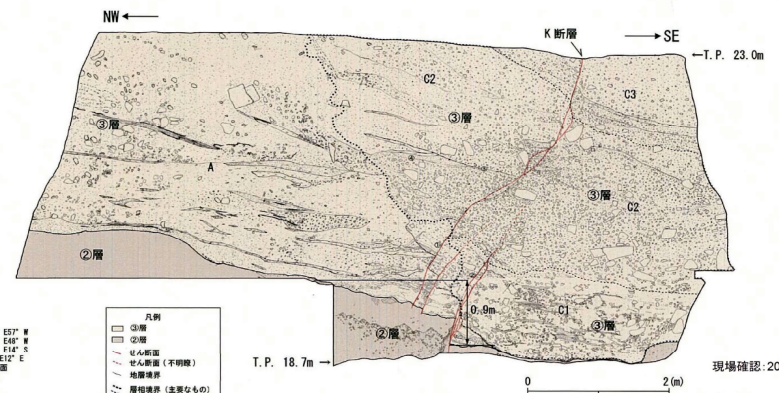


- D-1トレンチ擁壁撤去法面では、②層、③層を逆断層センスで変位させるK断層が認められる。
- ②層上面の鉛直変位量は、撓曲変形を含めて約0.9mである。

- D-1トレンチ擁壁撤去法面では、②層、③層を逆断層センスで変位させるK断層が認められる。
- K断層による②層上面の鉛直変位量は、撓曲変形を含めて0.9mである。

No.152
淡橙色

- ②層: 硬質シルト質砂: 褐色～淡黄褐色 (7.5YR6/1～10YR8/4)
基質はシルト。細～中粒砂であり、礫は径100mm以下の角～亜角礫主体である。全体的にやや軟質で北西傾斜と破砕となる。
②層上面の傾斜は、K断層の上盤側で10°程度で、下盤側ではほぼ水平を示す。
- ③層: 硬質シルト質砂: 淡橙色～淡黄褐色 (5YR8/2～10YR8/2)
礫は径40mm以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
基質は細～粗粒砂主体であり、レンズ状のシルト～シルト質砂を含む。
- C1層: 砂質: 明黄褐色～にぶい橙色 (10YR6/6～7.5YR7/3)
礫率30～40%であり、レンズ状に砂層を挟む。
硬質シルト質砂: 淡赤褐色～灰白色 (2.5YR7/3～7.5YR/1)
基質は細～中粒砂であり、淘汰はやや良い。
礫は径40mm以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
- C2層: 砂質: にぶい橙色～明黄褐色 (7.5YR7/3～10YR6/6)
礫率30～40%であり、淘汰はやや悪い。
基質は径200mm以下の風化を受けた角～亜角礫主体である。
- C3層: 硬質砂: にぶい橙色～淡黄褐色 (5YR6/4～7.5YR8/3)
礫は径100mm以下の風化を受けた亜角～亜円礫主体である。
基質は中～粗粒砂で、淘汰はやや悪い。



第7.4.4.100図 K断層 トレンチ調査結果(擁壁撤去法面)法面スケッチ

原電道路ピット/ふげん道路ピット スケッチに示された地層の色調 (No.153) を修正

従前

見直し後

第833回審査会合

資料1

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について (コメント回答)

38頁

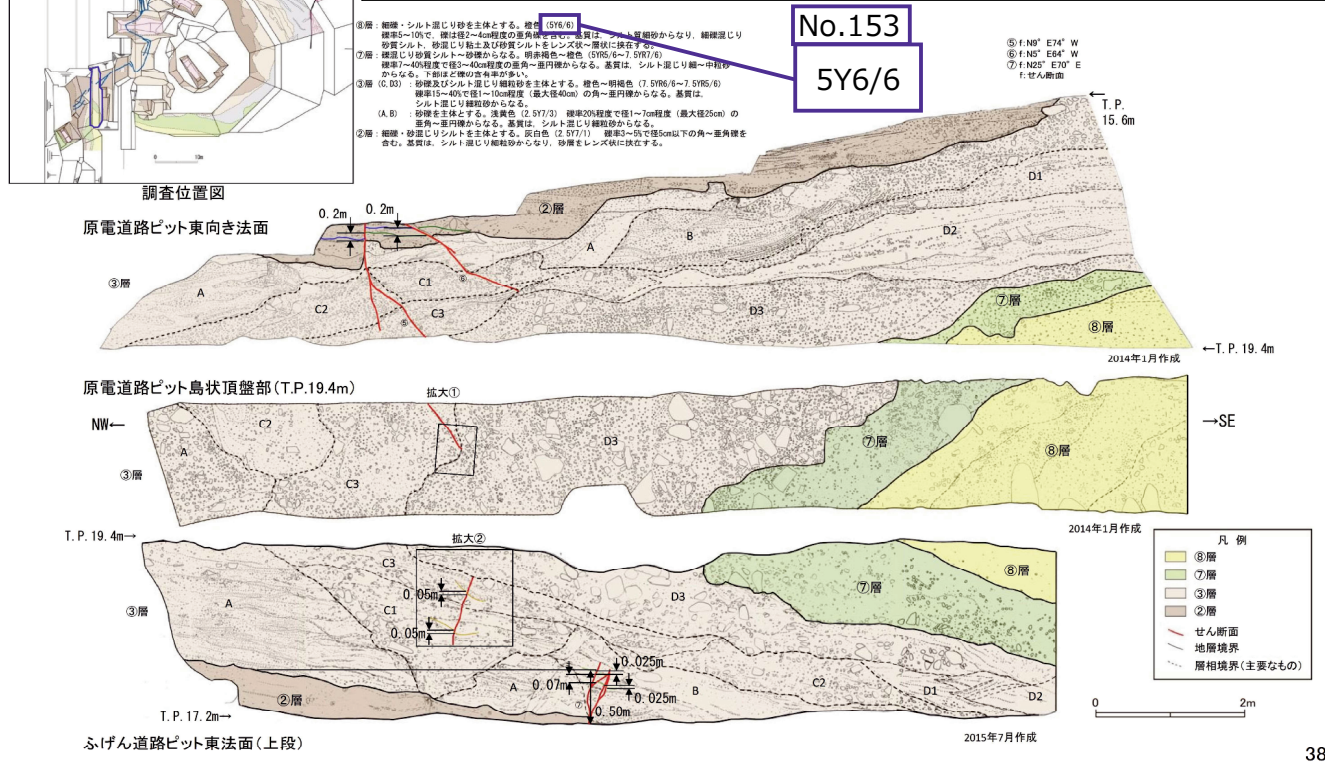
第833回審査会合 資料1に追記(青太梓)

K断層の連続性評価について

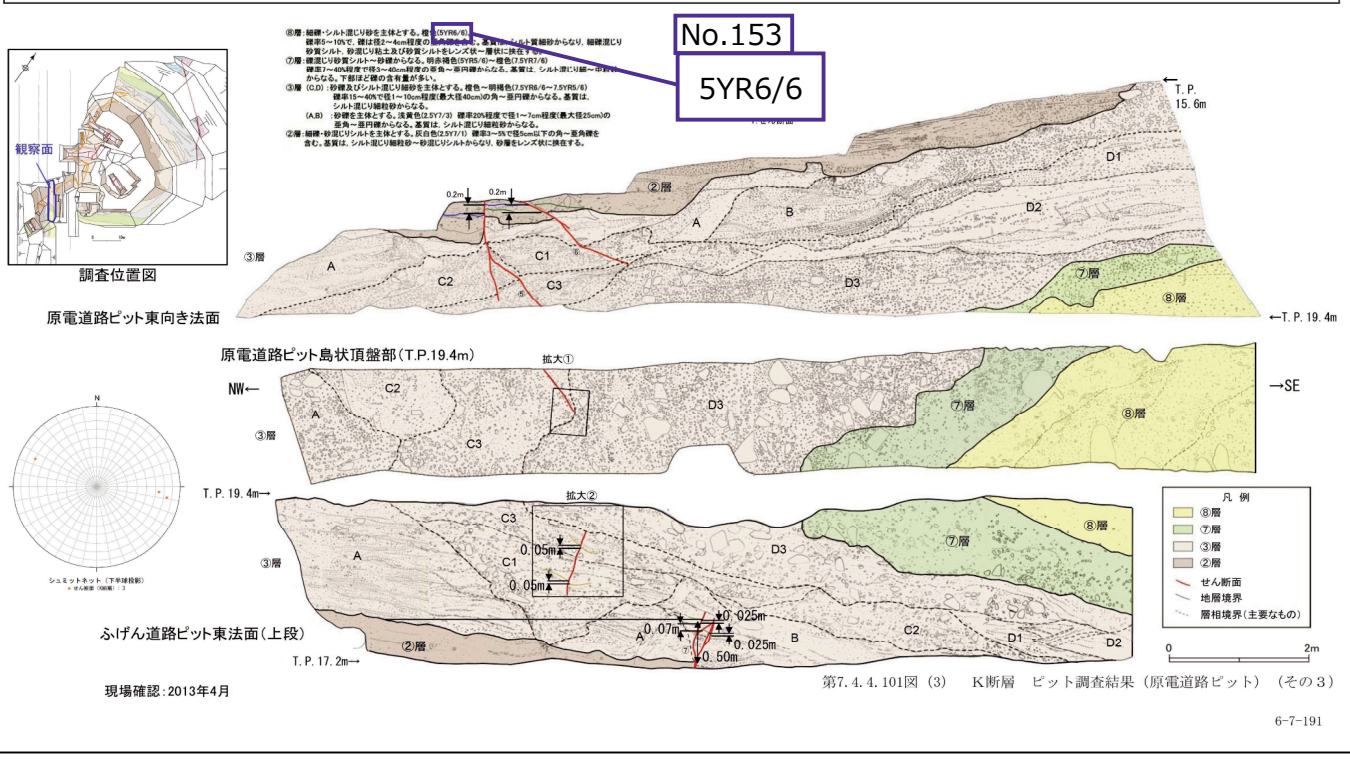
K断層の性状(原電道路ピット/ふげん道路ピット)

第536回審査会合 資料2 修正

- 原電道路ピット東向き法面では、K断層は②層及び③層(③層)までの地層に変位を与えているが、その上位の地層であるD3層(③層)は変位・変形を受けておらず、下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- ふげん道路ピット東法面(上段)では、C層までの地層に変位・変形を与えているが、その直上に分布するD3層の基底には、原電道路ピット東向き法面と同様、K断層による変位・変形は及んでおらず、D3層は下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。
- これらのことから、原電道路ピット及びふげん道路ピットにおいて、K断層はMIS6以前に堆積したD3層に変位・変形を与えていない。



- 原電道路ピット東向き法面で認められるK断層は、②層及び③層中のC層までの地層に変位を与えているが、その直上に分布する③層中のD3層は変位・変形を受けておらず、D3層は下位のC層とは明瞭な傾斜不整合関係で接している。同法面では、K断層は数条に分歧しており、②層中の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で0.4mである。
- 原電道路ピット東向き法面で実施した③層のOSL年代測定は、K断層と傾斜不整合関係で接しているD3層について実施しており、③層の堆積年代は133±9kaより古いことを確認した。なお、D3層に対比される地層は、D-1トレンチ入口南側法面において、美浜テフラを含む⑤層に不整合関係で覆われていることを確認している。
- これらのことから、原電道路ピット及びふげん道路ピットにおいて、K断層は133±9ka以前に堆積したD3層に変位・変形を与えていない。



ふげん道路ピット東法面中段 スケッチに示された地層の色調 (No.154、No.155) を修正

従前

見直し後

第833回審査会合

資料1

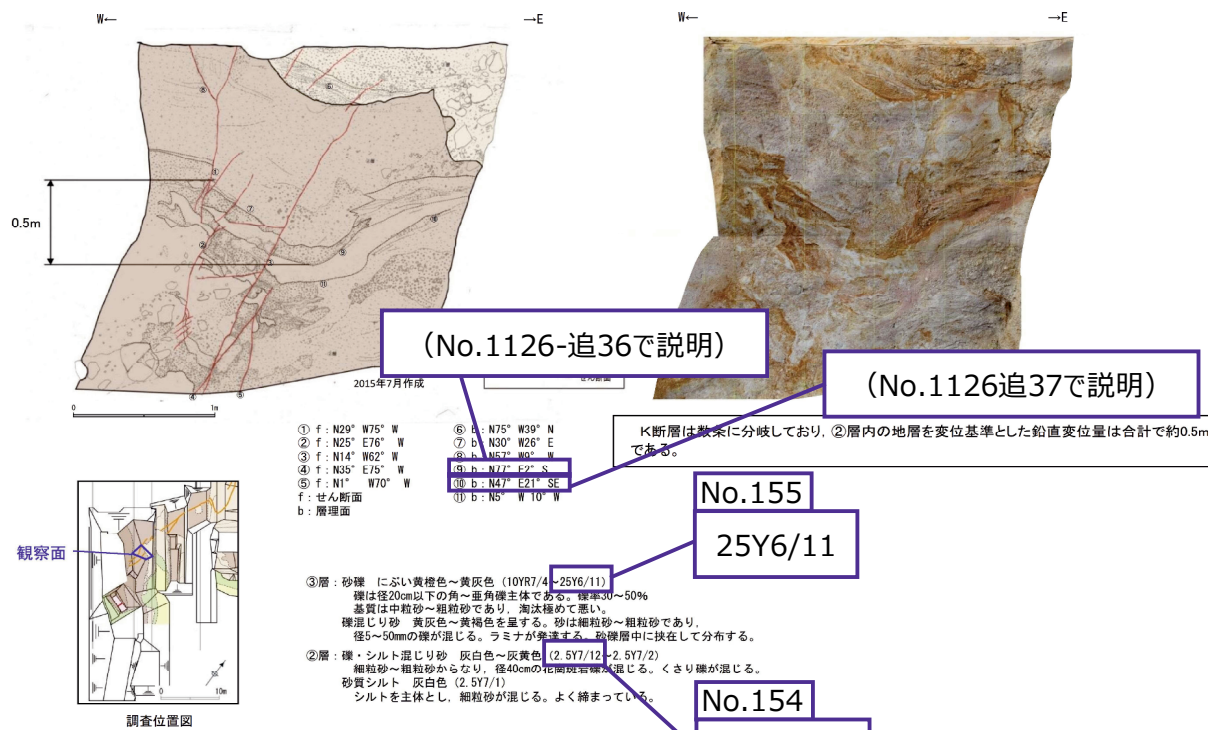
敦賀発電所2号炉敷地の地形、地質・地質構造について (コメント回答)

40頁

第833回審査会合 資料1に追記(青太枠)

K断層の連続性評価について
K断層の性状(ふげん道路ピット)

第536回審査会合
参考資料(1/3) 修正



ふげん道路ピットでは、K断層は数条に分岐しており、ふげん道路ピットの中央付近まで連続していることが確認でき、②層中の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で0.5mである。

